

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100035		
法人名	社会福祉法人 さわらび会		
事業所名	グループホーム野バラ		
所在地	徳島県徳島市名東町2丁目456番地		
自己評価作成日	平成22年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3670100035&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成22年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの個性を尊重し、希望にそった支援を行っている。食事面では、個人の嗜好に合った味付けや代替品を毎食提供している。また、野バラ農園で収穫した野菜も取り入れている。入浴は夕方に行い、同性介助にも対応している。一人ひとりの生活リズムやペースを大切に、家事や得意な事を中心として好きなように過ごしてもらい、散歩や買い物、行きたい場所への外出支援も多く取り入れている。職員は利用者に対して、常に尊敬と思いやりの気持ちで接し、温かい馴染みの関係ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員は共に支え合い信頼される人間関係ができており、家庭的な温かさが感じられる。拘束することの弊害を全職員が理解し、玄関・非常口は開錠され、常に目配り・気配りがされている。会話を楽しみながら食事を作り、利用者と職員は同じ食卓を囲んでいる。また食の進まない方には、おにぎりにして海苔で巻いて目先を変えたり、さり気ない気配りをしながらゆっくりと楽しんでいる。職員は様々な研修に参加し、評価を活かしながら自己研鑽に励み、サービスの質の向上に繋げている。利用者の表情は明るく、落ち着いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が書いてくれた理念を見やすい所に掲示し、常に念頭において支援できている。利用者も声に出して読んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作っている。毎朝の申し送り時には唱和して確認し、日頃の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、季節の行事や地域活動への参加、保育園児や小学生との交流等、関わりを持つことができている。	散歩や買い物での近隣の方々との交流、保育園児や小学生との交流など地域の一員としての関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事参加を通じて事業所のことを理解してもらっている。また、地域の在宅の高齢者や介護する家族の悩みを聞き、相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や活動、研修内容の報告等を行い、家族や民生委員、地域包括支援センターの職員から様々な意見をいただいている。率直な意見は気づきにも繋がり、日常のサービス向上に反映している。	運営推進会議では事業の現況報告・活動状況の報告に加えて、参加者と活発な意見交換がなされている。記録も残され、職員間での共有もできており日頃の支援に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護・ながいき課の担当の方に何度も相談し指導していただいたり、調べてもらったりしたこともある。	現況報告の提出に加えて、事業所の方針を伝えたり助言を求めるなど協力関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における弊害等を勉強会で繰り返し学習し、理解している。玄関には鍵をかけず、開けるとチャイムが鳴るようにしている。一人ひとりに合ったケアを実践することで身体拘束は行っていない。	全職員は身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしない支援をしている。玄関と非常口を開錠し、職員の目配りと気配りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の勉強会に虐待の防止を取り入れ、学んでいる。職員のストレス軽減やチームワークにも留意し、日々の利用者や職員の状態を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、年間の研修に取り入れて勉強している。家族にも情報を提供したり、運営推進会議でも話し合いを行ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず十分な説明を行い、理解・納得のうえで契約している。改定の際は疑問を質問しやすいように、一人ひとりに説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を重く受け止め、できるだけ反映している。家族には職員が機会あるごとに聞き、改善している。	家族の来訪時には、何でも話せる雰囲気づくりができています。意見箱も設置し、出された意見には素早く対応し、職員間での共有もできています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常業務の中で話し合いができています。職員一人ひとりの意見を反映できる状況になっている。	職員会議や日常業務の中で話し合う関係づくりができており、職員一人ひとりの意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、努力や実績を評価している。同時に面接を行い、話し合いも実施されている。また就業時間で終われるよう業務の見直しを行い、取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内では毎月、勉強会を行っている。外部研修では、個々の能力や希望にそって全職員が積極的に参加している。グループホームに配属されてから資格を取得した職員も多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業をきっかけに、他のグループホームの見学や交流が広がっている。互いに意見を出し合い、共にサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活背景や心身の状況を把握し、ゆっくりと聞き取りを行い、希望や不安を理解するよう努めている。家族からも本人の状況を細かく聞き、安心の確保に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に対する家族の思いや現状、求めていることを受け止めている。また希望を実践したり、不安を取り除いたりすることで信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内に施設サービスや複数の在宅サービスがある。医師や他事業所のケアマネジャーとも連携しながら、一番良いサービスを選択してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、人生の先輩である利用者から様々なことを教えていただいている。助け合い、支え合う中で信頼関係ができ、家族のような温かい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、相談し合える関係を築いている。本人からの手紙や電話の支援を継続しており、とても喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への訪問や墓参りを行っている。住んでいた家に行ったり、古くからの友人に会ったり、また手紙や電話など様々な方法で支援を続けている。	一人ひとりの成育歴・生活歴の把握に努め 馴染みの場所を訪れたり旧友と会う機会を設けたり、また手紙や電話など様々な方法で馴染みの関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性に合った利用者同士の仲良しグループが自然にできている。孤立しがちな方には職員が配慮し、自然に関わりが持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ入居しても、面会に行くなど関係を継続している。家族の方には、電話や手紙などで関わりを持ち必要があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意思を確認し一人ひとりの思いや希望を最優先したケアを心がけている。困難な場合は、全職員で話し合い、より良い方法を検討している。	日々の行動や会話の中から一人ひとりの思いの把握に努め、本人の思いを最優先にした支援がされている。意思確認の困難な方については全職員で話し合い、利用者に寄りそった支援がされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話からや回想法を通して、生活歴や暮らし方を把握している。またセンター方式を取り入れ、新たな情報は書き足している。家族からの情報も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	多角的に注意深く観察し、一人ひとりのその日の心身状態を正しく把握できるよう努めている。特に認知症が進行している方は、状態が定まらず不安定であるため、変化を見逃さず全職員で共有して対応に当たっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望にそうことを最優先し、ケアに関わっている全職員が話し合い、医師や看護師、栄養士、理学療法士の意見も反映している。	支援に関わる全ての関係者で話し合い、本人と家族の希望にそった介護計画を立てている。状態に変化の見られた時には、適宜見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化のあったこと等、介護記録に記入している。介護計画と記録を連動した形式にしており、見直しに活かされている。毎月、介護計画の実施状況を評価し、次月に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全ての診療科において、通院の介助を行っている。また、リハビリ通院や家族宅への送迎も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護・看護学生の実習や大学生による栄養指導の受け入れ、保育所・小学生との交流等を積極的に実施している。消防署には避難訓練のほか、緊急時の対応等の勉強会をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に必ず確認して希望する病院に受診し、継続した治療と通院にも対応している。夜間の急な対応は嘱託医と連携し、診療情報の提供等を行っている。	本人・家族の希望する病院での受診を支援している。夜間の急な対応は嘱託医に連絡し、日頃の状況を報告し、連絡を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の来訪があり、バイタル測定や状態観察、相談を行っており看護師は9名の利用者の状態を把握できている。また常に連携し、来訪や処置など対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁に連絡を取り合い、協働できている。入院時にはたびたび面会に行き、状況把握に努めている。早期の退院を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員の連携体制や力量、他の利用者への影響などを考慮し、体制づくりに取り組んでいる。重度化した方については、家族の意向を優先し、医師や看護師と連携を取りながら安心して過ごしていただけるよう支援している。	他の利用者への影響等も考慮した体勢づくりに取り組んでいる。重度化した場合には本人や家族の意向を最優先している。職員間での共有もできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内外の研修を年間計画に取り入れ全職員が繰り返し勉強している。事業所内研修は、実践中心の内容となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を実施している。1回は消防士の参加もあり、初期消火や避難誘導などを指導してもらっている。また、非常用品の備蓄もできている。地域との協力体制については会議で話し合っている。	災害時のマニュアルを作成し、職員に徹底している。年2回避難訓練も実施され、地域住民との協力体制も築かれている。食料の備蓄もされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを大切にし、個々に合わせた言葉かけや対応などを心がけている。不適切な言葉使いや態度が見られた時には、管理者から注意したり話し合いをしたりしている。	プライバシーに配慮した利用者一人ひとりに合わせた支援がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができ、希望を表せる利用者については、選んだり決めたりすることをゆっくりと待ち、職員側から決めないよう配慮している。意思表示が困難な方には、表情から読み取る等、必ず希望にそえるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりはなく、一人ひとりのペースや希望に合わせて支援をしている。起床や就寝、食事の時間も希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望する美容院へ行ったり、更衣介助の時には、本人に服を選んでもらったりしている。乳液やクリームの使用、毛剃りなどにも対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、片付けを生き活きとした表情で行なっている。職員は教えてもらいながら、感謝の気持ちを伝えるようにしている。調理や盛付ができない人には、味見をしてもらうなど少しでも参加してもらっている。	職員と利用者は対面キッチンをはさみ、会話を楽しみながら食事作りをしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲んで食事をしながら介助し、目配りしながら完食されるまでゆったりと支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録し、適切な摂取ができるよう努めている。一人ひとりの咀嚼、嚥下力に合わせ、食事形態の工夫や自助具の使用などを対応している。またとろみをつけるなど水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態や能力に合わせた口腔ケアを実施している。歯だけでなく舌を磨いたり、歯茎のマッサージ等も取り入れたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録することで、一人ひとりの排泄パターンが把握でき、個々に合った支援ができています。できるだけ布パンツで過ごしていただけるよう努めている。また、プライドを傷つけないよう配慮している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、布パンツ使用を心がけて個々に合った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳を飲んでもらったり、毎食後手作りの寒天ゼリーを食べてもらったり、また、便秘に効果のある食品の摂取等、日々実施している。散歩や体操、腹部マッサージ等も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	家庭での入浴に近づけるよう、夕食の前後に支援している。一人ひとりの好みの湯加減や習慣を大切に、体調を考慮しながらゆっくりと入浴していただいている。同性介助の希望にも対応している。	一人ひとりの希望にそった時間帯での入浴を心がけ、好みの湯加減や習慣を大切に支援している。また、同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促すことを重視し、好きな時に昼寝や休息もとってもらっている。夜間は水分補給や安心して眠れるような言葉かけを心がけており、室内温度や照明を好みに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気と服薬内容がわかる資料を、いつもすぐに見られるようにしている。臨時に処方された薬はミスがないよう周知徹底し、二重のチェックをしている。また、状態観察や医師との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や農作業、裁縫等それぞれの得意なことをすることで生き活きと生活している。季節ごとの行事や習わし等も教えてもらいながら、一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りや神社、寺へのお参り、買い物、自宅や馴染みの場所への外出支援等を行っている。遠足やホテル見物、阿波踊り見物等へは家族も一緒に出かけている。	一人ひとりの希望にそった外出支援をしている。また、季節に合わせて花見や蛸狩り、阿波踊り見物など家族も加わって一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞き、力量に応じて支援している。常に小額を入れた財布を持っている人や、外出の時だけ本人に持ってもらい、自分で支払っている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「野バラ便り」や近況報告の手紙を出す時に、利用者にも手紙を書いてもらっている。家族も喜んでくれている。また電話をかける支援を行い、良い交流となっている。家族から手紙や電話をいただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節の花を生けたり、利用者の作った作品や写真も飾ったりしている。居室には花や好きな物、馴染みの品を置き、安心してもらえるように配慮している。また大きな音を嫌うため、音をたてないように注意している。	共有空間は床暖房を設置している。壁面には見やすい時計とカレンダー、利用者の作品や写真が飾られ、それぞれがくつろげる落ち着いた明るい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには大きなソファがあり、ゆったりと座って気の合う人同士で話をしたり、一緒にテレビを見て過ごしたりしている。一人かけのソファもあり、気分に合わせて思い思いに過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物品、家族の写真、好きな絵や花、畳みの設置等、一人ひとりの好みに合わせている。ご飯をおまつりしている方もいる。	各居室には洗面台とトイレが設置されている。トイレはカーテンで仕切られ、使いやすさと同時に危険への配慮もされている。室内には馴染みの家具や好みの物が持ち込まれ、その人らしい居室づくりができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の配置、ドアの目印、混乱する物の排除等、一人ひとりの状態に合わせた環境づくりに努めている。		